

田富小だより

令和4年度
第4号
7月22日
田富小学校



1学期の終わりに…



長いようで短かった72日間の1学期の学習を終え、夏休みを迎えることになりました。そこで、1学期の子ども達の様子を振り返りたいと思います。

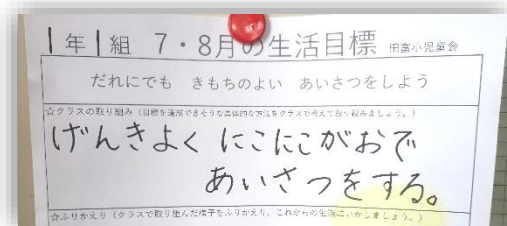
①本校では、5年ほど前から、毎年クラス替えを実施しています。よって、毎年が新しい仲間たちとのスタートになります。令和4年度も同じ。4月に新しい仲間たちと心機一転学校生活を始めました。初めの頃はなかなか慣れなかったり、思うように自己表現ができなかったり…とごちない様子も見られましたが、日々の学習や生活、行事などを通して少しずつ仲間意識が生ま

れてきました。時にはけんかや言い争いがあったり、授業中も落ち着かなかったりするなどの様子は見られましたが、今では落ち着いて学習に励むことができるようになってきました。ある朝、1年生の数人が自分たちの傘置き場の辺りでガサガサと何かしています。尋ねてみると、乱雑に入っていたから、直しているとのこと。「自分たちの学級のために活動する」そんな様子を見ることができました。

②次に児童会活動について紹介しましょう。今年度は、3本の柱（気持ちよく笑顔で過ごせる学校、協力し合える学校、切り替えが早く、ルールが守れる学校）を木に見立て、目標が達成できたら、その木に実をつけようということになっています。先日紹介したゲーム集会は「協力し合える学校」、他の2つでは、廊下を歩く運動やあいさつ運動を推進しています。児童会本部の提案した具体的な活動をするのではなく、それぞれの学級が実態に応じて取り組みを決め、それにむかって取り組んでいくことになっています。ですから、5年2組は廊下を走る人を少しでも少なくするために、ポスターによる啓蒙活動に取り組もうと決めると、クラスで何枚もポスターを作り、校舎の内に掲示しています。1年1組では、挨拶運動の具体的な活動を「げんきよくにここに顔であいさつをする」と定め、忘れないように教室の入り口に掲示して意識して挨拶しようと頑張っています。子ども達がクラスで目標を定め、それに向かって取り組み、評価するという活動の中で、ひとつのことを成し遂げるため



に何をすればいいのかわからないのか、どう考えればいいのか…と多くのことを学んでいってほしいと思います。これからの子ども達の活動に期待大です。7月23日からは、34日間の夏休みに入ります1学期の学習を復習し、生活を振り返り、しっかり休養・充電して、8月26日からは、また元気に登校できるようにしてください。



気候の変化と学校生活、そして危機管理

皆さんもご存知のように、6月の最終週の暑さといったら、相当なものでした。連日、37度、38度といった具合で6月の記録を更新する日もありました。地球温暖化の影響でしょうか、年々、夏が過ごしにくい季節になってきているように思えてなりません。そこで、私が小学校6年生だった頃の夏の平均気温を調べ、今と比較してみました。7月は、1、9度、8月は2、8度も温度が上昇していることがわかりました。そのころの夏はさほど暑かったという記憶はありませんでした。どんなに暑くても33度くらいまでしか上がりなかつたような気がします。でも現代は更に暑くなっていることは確かなようです。甲府市でも2013年に40.7度を記

録していて、夏がやってくるたびに嫌気を通り越して、危険を感じるようになりました。これは、学校での活動にも大きな影響を与えます。熱中症指数を確認しながら、体育実技の禁止や休み時間の外遊び禁止など、その時々で対応している現状です。エアコンなどを使って、子ども達が快適な環境の中で学習に励むことができていることは非常に良いことだと思いますが、問題は登下校時です。朝から陽が照り付け、登校する子ども達は汗びっしょりです。帰りは更に過酷です。1日のうち最も気温が高いのは、午後2時頃ですから、まだ気温がかなり高い中帰らなければなりません。過日、保護者の皆さんには、「下校時、危険な気温の時には、下校時刻を遅らせる場合がある」旨の通知を出しました。これは、発雷確率が高いときも同様です。また、最近では子ども達の間でもごく普通なことであると認識し始めた日傘も、大変重宝しています。厚生労働省のHPには、日傘の効用について記述してあるものがあり、気温が数度違うという実験結果も掲載されています。危険な暑さに対応することは、今後更に厳しく、難しくなってくると思います。これから先も予期せぬ状況が生まれるかもしれません。自然と上手に付き合っていかなければならないということをしかりと確認していきたいと考えています。



最近の子ども達を見て気になることが少々あります。それは、子ども達とゲーム・ネットとの付き合い方です。朝から大きな欠伸をしたり、授業に集中できない児童を時々見かけます。子ども達は「夜寝るのが遅かった」といいます。11時とか12時とか、さらに午前2時に寝た（本当はどうかはわかりませんが）なんて言う子もいます。そんなに遅い時間まで何をしていたのかを問うと、「ゲームをしていた」「配信動画を見ていた」「ネットゲームをしていた」などが多くを占めます。ゲーム機やインターネットを介して触れることができるものは、子ども達にとってとても身近で、親しみやすい対象となっているようです。では、子ども達は果たして、健全にゲーム・ネットと付き合うことができているのでしょうか。「ICD-11」とか「DSM-5」といった世界的な診断基準をみると次のように書いてあります。

夏休みに向け、心配になる ゲーム・ネットとの付き合い

- ・ゲームを他の何にも増して優先する
- ・ゲームにより問題が起きているのに、ゲームを続ける。
- ・インターネットゲームにとらわれて、ゲームが日々生活の中での主要活動となっている。
- ・インターネットゲームが取り去られた際のイライラ、不安といった離脱症状がある
- ・やめようと思ってもやめられない
- ・過去の趣味や娯楽への興味の喪失
- ・無力感
- ・不安などの否定的な気分を避けるため、あるいは和らげるためにインターネットゲームを使用する

そして、これらの症状がさらに進行していった結果として、引きこもりや、暴力、昼夜逆転、欠席・欠勤などが続き、結局、退学や失職につながっていくという事案は多いようです。

子ども達がいま置かれている環境は、そういった障害に陥りやすいものであることはまちがいありません。夏休みは学校を離れ、自由にできる時間が多くなります。45分ごとの授業も、掃除や当番活動もないからです。そのことによって、いや、自由にできる時間が多いためこそ使いたいように使うという考えも少なくないでしょう。ですから、ゲームやネットについては、保護者のみなさんと子どもとの間で、しっかりとルールを作り、ルールを遵守することが大切です。自分の生活は自分で律することが大人になるための大きな目標ですが、小学生はまだまだ十分にそれを行っていくことはできません。ぜひ、家族全員で、子ども達の生活を見守り、ゲーム障害、ネット障害にならないようにしましょう。全国の子ども達の中には、重度の障害となって医療機関にいく者も多くあります。今こそ危機感をもって、増え続けるネット障害、ゲーム障害に真摯に向き合う時ではないでしょうか。夏休み中、子ども達が健全な生活を送れるよう、ご指導をよろしく願います。

